

入選

小さな親切

広島県 安浦中学校 三年
森若 愛名

その日のスーパーマーケットは、おぼんで使うお供えやご飯の材料などを買うたくさんのお客さんで、レジ前には列ができていて、私はそこに並んでいた。

「先に行きんさい。」

と、私の前に並んでいた、つえを持った白いかみの毛のおばあちゃんに声をかけられた。私は、突然のことで少しびっくりした。そして前を見ると、二つのかごいっぱいを買っていたおばあちゃんが、しょうゆだけを持って並んでいた私に気づいて、自分より先にしようとしてくれたんだ、と気づいた。

私は、

「ありがとうございます。」

と頭を下げ、順番を代わってもらった。

ところが、私はお店を出てから、なぜか後を引く思いがして立ち止まった。今日私は、おばあちゃんに頼まれたしょうゆを買いに来たけれど、めちゃくちゃ急いでいたわけではない。レジに並んだ順番通り待つ時間もあったのに、「先に行きんさい」という言葉に、「早く帰れる」との思いがよぎり、自分の遠慮のなさを感じたからだ。

お先に、と親切に気づかいをしてもらっても、逆に、「ありがとうございます。けれど、並んで待つのは大変なことか、どうぞこのままお先にどうぞ。」と、相手を気づかい親切にするべきだった。自分を優先してもらうことで、相手を後回しにしてしまった、ということにも気づき反省した。

そして、帰ろうとしたとき、大きなダンボールに買ったものを入れたおばあちゃんが出てきた。そのまま歩き始めたおばあちゃんは、ダンボールが重いのか、ちょっとずつ歩いて、途中でダンボールを置いて止まったりしていた。

私は、「今じゃ」と思って走ってかけより、

「荷物、いっしょに持ちます。」

と、言った。おばあちゃんはびっくりしていたけれど、私がダンボールの片方を持つと、いっしょに歩き始めた。

「ごめんねえ。重いじゃろうに、ありがとう。」

と後から聞こえた。その言葉に、胸がギュッとなった。「どういたしまして。」の一言を返すことができない。私は、「はい。」と、返事をするのが精いっぱいだった。そして、おばあちゃんの車にダンボールを乗せて、その場を後にしたのだった。

親切にしてもらい、「どうも」。それでだけでもいいが、それではそこで終わってしまう。でも見方を変えれば、親切のお返しもできる。小さな親切だけではなく、見方を変えてこんな親切もあるんだな、と思えるような親切を見つけていきたいなと思った。